

香川県内公共図書館連携企画「#つながる図書館～発見！“知らなかった”に出会う本～」 各図書館の推薦図書リスト

図書館名	推薦図書			
	タイトル	著者	タイトル	著者
香川県立図書館	タガヤセ！日本「農水省の白石さん」が農業の魅力教えます	白石 優生	カラスのいいぶん 人と生きることをえらんだ鳥	嶋田 泰子
	ある日インターネットで見つけた、1本の動画。国家公務員が自分の業務を紹介する内容でしたが、硬くないし、分かり易いし、面白い！この本は、動画に出演した現役官僚YouTuberが、日本の農業の現状と課題や、農林水産省の仕事について、若い人向けにまとめたもので、日本の農林水産業を楽しく知ることができます。		カラスは毎日見かける身近な生きものですが、ごみ置き場を荒らすなど悪い印象を持たれがち。実は、カラスについては知らないことばかり。著者は、家に来るカラスを観察して彼らの行動の裏にあるものを知り、この本に、「人と生きることをえらんだ鳥」というサブタイトルをつけました。観察と発見の楽しさを教えてくれる本です。	
高松市夢みらい図書館	科学メガネ読本	池内 了	なぜこうなった？あの絶景のひみつ	増田 明代
	『旨いものは別腹って本当？』『大人になると時間が経つのがなぜ早い？』素朴な疑問を科学というメガネで見てみよう。天(宇宙)、地(自然)、人(生物)をテーマに身近な「なぜ？」をわかりやすく解説。著者曰く、「読者にちょっぴりプラスになるかも。」気軽に読める科学エッセイです。是非、ご一読を！		ウユニ塩湖やグランドキャニオンなど、世界の美しい絶景がどのようにできたか知っていますか？大地が長い年月をかけて現在の風景になるまでを子ども向けにやさしく図説しているほか、オーロラやダイヤモンド富士などの自然現象についても迫力ある写真で紹介しています。読むと見に行きたくなりますよ！	
高松市牟礼図書館	一年に一度しか会えない 日本の「来訪神」図鑑	フランそあ根子	季節のざっそう探検帳 みちかな草花のひみつ！	飯田 猛
	年に一度、時を定めて神の世界から訪れる「来訪神」。多くは仮面をつけるなど仮装をしており、秋田県のナマハゲのように有名なものから地域の人しか知らないマイナーな神様まで多く存在します。香川県三豊市の「仁尾竜まつり」もそのうちの一つ。日本各地の「来訪神」と出会ってみませんか？		雑草という名前の植物はないという一文ではじまる本書。その言葉どおり、道端の小さな草花にはきちんと名前があり、「知らなかった」知識がつまっています。観賞用で外国から国に広がった花や、生命力が強く戦国武将の家紋のモチーフになったものも。子どもと一緒に季節を楽しめる一冊です。	
高松市香川図書館	ドッキン！いのちの不思議調査隊	朝日新聞出版	そういうゲーム	ヨシタケシンスケ
	第一線で活躍する生命科学者たちが、最新の研究の数々をやさしく解説。全10話の中には、マンモスの復活や老化を止める方法など、SF映画を彷彿とさせる研究が満載で、少し難しいですが、写真やイラスト付きで楽しく読めました。		「おうだんほどの 白いところだけふんで むこうがわまでいけたら かち。おちたらワニがいる。」日常のあらゆるひとこまをゲームとして、状況を客観視できれば、少しくらい嫌なことがあっても毎日楽しく過ごせそう。	
高松市国分寺図書館	韓国文学の中心にあるもの	斎藤 真理子	鳥はなぜ鳴く？ホーホケキョの科学	松田 道生
	いま韓国文学の勢いはすごい。著者はその魅力の謎を解くキーは「戦争」にあるという。韓国にはごく最近まで伏せられ、秘められてきたもの凄いの事件が何度も何度もあった。隣の国なのに、あまりにも知らなさ過ぎたと思わされる。本の案内だけでなく歴史を学ぶにも道標になる本だ。		鶯の鳴き声「ホーホケキョ」を一度は聞いたことはあるでしょうか。藪が広がっている自然があれば、日本の様々な場所にいます。そんな身近にいる鶯について詳しくまとめた本書。前半は鳴き声、後半は万葉から現代まで、人と鳥の関係について様々な視点から掘りさげた一冊になっています。	
丸亀市立中央図書館	お家、見せてもらっていいですか？	佐久間 薫	世界の教養が身につく1日1西洋美術	キムヨンスク
	皆さんの考える理想の家はどんな家でしょうか？お城のような大きな豪邸、趣のある日本家屋、こじんまりとした個性派ハウスなど……多種多様な理想の家があると思います。将来一軒家に住むことを夢見る団地暮らしの道生と時代や環境、家主のこだわりが伝わる家の数々を一緒に見てみましょう！		1日1作品、西洋美術の見どころを解説した1冊。曜日ごとに異なる7つのテーマを扱っており、幅広い知識を身に着けることができます。1日1つ、“知らなかった”との出会いを積み重ねることで、西洋美術への理解を深め、自らの感性を伸ばすことができる、おすすめの1冊です。	

図書館名	推薦図書			
	タイトル	著者	タイトル	著者
丸亀市立綾歌図書館	カラフル	阿部 暁子	トットちゃんの15つぶのだいず	黒柳 徹子
	高校入学式の朝、通学途中の駅でひったくり犯を捕まえた伊澄。彼は、そこで、犯人を足止めしようとした車いすユーザーの少女六花と出会う。今まで知らなかった車いすユーザーからの視点や思い。彼女の境遇や夢を、知れば知るほど気になっていく伊澄。それは夢を諦めた、自分自身の再生へ繋がる。		トットちゃんこと黒柳徹子さんが幼少期のころは戦時中でした。食料不足になってしまい母からもらったお弁当一日分の食べ物「15つぶのだいず」でした。その当時の生活の大変さが伝わってきます。私たちの世代は戦争を知らない人達が多いと思います。戦後80年という年にぜひ読んでみてください。	
丸亀市立飯山図書館	みんなの道徳解体新書	パオロ・マッツァリーノ	日本語をもっとつかまえろ！	飯間 浩明
	学校で「教科」になった道徳。教科だから「指導目標」と「評価基準・評価」が必須です。はて、そもそも道徳ってなんだ？戦前の厳格修身を履修した大物たちがどんな偉業(威？異？違？)を成したか？など、このタイトルなのに思わず吹き出してしまふファクト満載。笑い＆憤りながら道徳の謎を一緒に掘り下げてみよう。		この本が“知らなかった”に出会う本になります。いろんなことが知れてよかったですよ。これからも発見の多い本をご紹介します。おやおや？この文章、お尻がむずむずしませんか？時代につれ人とともに変化し変容し膨らみ続ける日本語の森。辞書編集ことばハンターの案内を頼りに分け入ろう。	
坂出市立大橋記念図書館	紙鑑定士の事件ファイル 模型の家の殺人	歌田 年	昆虫の惑星 虫たちは今日も地球を回す	アンヌ・スヴェルトルップ＝ティージェソン
	“神”探偵に間違えられた、“紙”鑑定士の渡部は、失踪事件の調査をすることになります。豊富な紙の知識を頼りに調べを進めると、衝撃的な事実にとどろき…！？謎解きと同時に紙のマニアックな世界を知ることができる作品です。第18回「このミステリーがすごい！」大賞受賞作。		昆虫の体の構造・生態やヒトとの関わりについてわかりやすく解説してくれます。「ゾンビ・ベビーシッターと吸魂鬼バチ」や「ハエもヤケ酒を飲む」など、好奇心をかき立てられる内容が盛りだくさん！自然のシステムに大きく貢献し、この地球を緑の下で支える昆虫たちの「知らなかった」部分が見えてくる一冊です。	
善通寺市立図書館	ウミウシを食べてみた	中野 理枝	図像学入門 疑問符で読む日本美術	山本 陽子
	ウミウシ(ナメクジの親戚)を食べる。衝撃的なタイトルであるが、その内容は全編にわたってウミウシへの愛情であふれている。いまだに謎が多いウミウシの生態について、軽妙な語り口で分かりやすい解説がされているため、入門書としてもピッタリである。さすがに食べたいとまでは思わなかったが…。		教科書で『麗子像』を初めて見た時、周りの友人と口を揃えて言った。「なんか怖い」。そんな「なんとなくもやもや」した作品に込められた意味や作者の意図を読み解いていくのが、図像解釈学である。美術品の美しさや技術だけではなく、これまで知らなかった新しい楽しみ方を知ることができる。	
観音寺市立中央図書館	発明が変えた世界史 ビフォーとアフターが一目でわかる	祝田 秀全	どっちもすごいそっくり！しぜんとテクノロジー	長島 孝行
	文字、ワクチン、飛行機……。世界史を変えた60の身近なモノや技術をビジュアル解説。現代人の《あたりまえ》がどのように生まれ、社会を動かし、歴史を変えてきたか……。さらなる進化の紹介もあり知っているようで“知らなかった”に出会える一冊です。		「バイオミメティクス」という言葉を知っていますか？生物を模倣して利用する技術のことです。この本では、カワセミと新幹線、オナモミとマジックテープ、コナラの葉と人工衛星などなど……。それぞれに共通するそっくりな特徴と、その理由を写真と絵で分かりやすく解説してくれます。	
観音寺市立大野原図書館	やなせたかしおとうものごたり	やなせ たかし	猫は、うれしかったことしか覚えていない	石黒 由紀子
	朝ドラ「あんぱん」で話題のやなせたかしさんが、大切な弟への思いを絵とともに綴った詩集です。朝ドラを見て読んでみようと思いました。子どもの頃好きだったアンパンマンの作者としか知らなかったのが、22歳で戦死した弟がいると知ったときは衝撃的でした。最後は未発表のエッセイになっています。		良くも悪くも…猫は過ぎたことを引きずることなく、うれしかったことだけを積み上げて生きていく。そんな生き物だそうです。この本を読むとたくさんの発見と共に、その存在の愛おしさや癒やしに包まれる。猫を飼っている人も、そうでない人にもオススメの一冊です。	

図書館名	推薦図書			
	タイトル	著者	タイトル	著者
観音寺市立豊浜図書館	白菊 伝説の花火師・嘉瀬誠次が捧げた鎮魂の花	山崎 まゆみ	博物館のバックヤードを探検しよう！ 博物館のすごい裏側大図鑑	DK社
	その本との出逢いは偶然？いいえ、出逢うべくして出逢ったのです。日本三大花火大会も知らず、花火には関心もなかった私が長岡まで足を運ぶほど「伝説の花火師」は魅力的でした。空に咲いた鎮魂の花火『白菊』は、まるで舞い上がり弾ける泡のような、柔らかな切なさがありました。		博物館ってどんなところ？どんな物が置いてあるの？どうやって管理しているの？どんな人が働いているの？博物館は、歴史を学ぶ、歴史を保管する、未来のための研究…。「いろんな発見、知らなかった」がわかる本です。写真がたくさんあってとてもわかりやすいです。	
さぬき市志度図書館	池上彰と学ぶイスラエル・中東の歴史地図	池上 彰	なりたい！が見つかるお仕事図鑑	朝日新聞出版
	全世界を巻き込む「中東問題」、とりわけ中心的存在であるイスラエルが、世界のどこでどれほどの国土を保有し、なぜ戦争という最悪のロードを強硬に突き進まなければならないのか、豊富なカラー地図に重厚な語り口の池上彰氏の監修が加わり、知らなかった中東今明らかになる珠玉の一冊に出会えました。		多様な社会を生きていくために、孫の成長過程で何が必要かな？と、何かセントを見つつけようと手にした一冊です。未来を描きながら、どのようになりたいか、なるためにはどのような事が必要なのかかわかりやすく書かれています。親子で是非読んで、今まで知らなかったことを発見してみてもはどうでしょうか。	
東かがわ市立図書館・引田図書室	本屋図鑑 だから書店員はやめられない！	いまがわ ゆい	深すぎてヤバい宇宙の図鑑 宇宙のふしぎ、おもしろすぎて眠れない！	本間 希樹
	本好きの二大聖地といえば図書館と本屋。その本屋さんの仕事について“知らなかった”が満載だった1冊。本にビニールをかける機械はシュリンカーっていうんだって！雑誌コードの数字、実は〇〇の意味なんだって！などなど…まるで大人の職場体験のような1冊で、あなたももっと本好き沼にハマるはず。		「月は毎年4cm遠ざかっている」ことをご存知ですか？このまま月と地球の距離が遠ざかると、10億年後にはある現象が見られなくなるそうです。その現象とはなんでしょう？答えはこの本の中に載っています。宇宙の中に生きている私たちの存在も、宇宙を知ればさらに尊く感じますね。	
みとよ未来図書館	身近すぎて気づかない、偉大な発明図鑑	クライブ・ギフォード	聞くのが楽しくなる耳のひみつ	今泉忠明
	私たちは日々、様々なものを使って生活しています。携帯電話、眼鏡、冷蔵庫などなど。気にも留めたことないですが、当たり前のように使っているあれやこれやはいったい、いつ、誰が、どのように開発したのでしょうか？この本を読めばきっと、“知らなかった”に出会えることでしょう。		うちの猫は、私の帰宅を玄関で待っていてくれます。それはどうやら耳に関係があるらしい。なんと猫の聴力は人間の3倍以上あり、遠くの車の音や足音がわかるようです。耳の性質や機能は生き物によって実にさまざま。この本は、人に話したくなるような「初耳」とたくさん出会える一冊です。	
土庄町立中央図書館	鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。	川上 和人	すごいぞ！ニッポン美術	結城 昌子
	一つ目の“知らなかった」は、タイトルから。鳥類学者って「鳥が好き」からはじまるんだろうなと思いきや…、何となく鳥類学者になった感じの著者。でも本の中には、鳥や生きもの、自然、そして研究者の仕事について“知らなかった！」がいっぱい詰められていました。鳥類への愛を感じる1冊です。		日本画の世界は奥が深く、一度は見たことあるような有名な日本画はヨーロッパにも多くの影響をおよぼしたそうです。技法も絵の具の種類も日本独特のものがあ、だからあの微妙な色も出せるのですね。絵の解釈はよくわからないけれど、ちょっと説明を聞けばなんだか面白くなってくるから不思議です。	

図書館名	推薦図書			
	タイトル	著者	タイトル	著者
小豆島町立図書館	寿命図鑑 生き物から宇宙まで万物の寿命をあつめた図鑑	いろは出版	僕には鳥の言葉がわかる	鈴木 俊貴
	生き物だけでなく機械や建築物など様々なものの寿命を集めた図鑑です。動物園や水族館でよく見る生き物の寿命も意外と知らなかったりします。東京タワーの耐用年数は50年。すでに70年近く経っていますが定期的なメンテナンスのおかげで今も現役です。解説付きで発見がいっぱいの本です。		言葉は人間だけのものではなく、鳥には鳥の言葉があることを発見した動物言語学者の本ですが、ユーモアのある文章でクスッと笑えてあつという間に読めます。実験の苦労はたくさんありますが、発見した時や自分の仮説が合った時の喜びが文章から伝わってきます。シジュウカラの鳴き声が聞けるおまけつき。	
三木町文化交流プラザ	鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。	川上 和人	りんごかもしれない	ヨシタケシンスケ
	鳥類学者の本なのに、とにかく面白い！「鳥は飛翔という最大の特技がある。老婦人に舌を切られたひ弱な雀でさえ、時には500km移動する」など、鳥の特徴や雑学、過酷なフィールドワークをユーモアたっぷりに紹介。きつと、鳥ってこんなに奥深い存在だったのか…の発見あり。		目の前に置かれたりんごは、もしかしたらりんごじゃないかもしれない……？ 確かに！ そうかもしれない？ なんて思うこと間違いなし！ 常識も、予想もぶち壊しながら、どんどん大きくふくらんでいくその発想に目が離せません。もしかすると、この本も本じゃないかもしれない……？	
ライブラリーうたづ	名字でわかるあなたのルーツ 佐藤、鈴木、高橋、田中、渡辺のヒミツ	森岡 浩	真実を発見！ 科学捜査 DNA鑑定から死因究明まで	石澤 不二雄
	あなたの名字はなんですか？ 名字数トップ3の佐藤・鈴木・田中に始まり、日本には数多くの名字があります。その由来は地名や職業にちなんだものなど、実に多種多様。香川県で一番多い名字は大西さんですが、そのルーツはお隣の徳島県にあるのだとか。奥深い名字の世界に飛び込んでみてはいかが？		テレビドラマや小説などでおなじみの「科学捜査」。事件事故の原因究明に必要な物的証拠を探し出して調査しますが、具体的にはどんなことをしているの？ 目で見えないものすら見つけ出す技術とは？ なんとなく知ってはいる事柄について詳しくなれる、「再発見」できる児童書です。	
綾川町立生涯学習センター (図書館) ・綾川町立綾上図書館	文豪どうかしてる逸話集	進士 素丸	その話、諸説あります。	ナショナルジオグラフィック
	「銀河鉄道の夜」「吾輩は猫である」「走れメロス」「父帰る」…。名作を生み出した文豪たち。どんな人なのかと思ったら…面白いエピソードが満載でした。27人の作家の意外な一面を知ることができる1冊です。		答えの分からない問いと、検証される無数の説…「モナ・リザのモデルは誰？」「邪馬台国はどこにあった？」「ヒトの寿命は何歳まで延びる？」など今も研究され続ける謎と様々な説を紹介しています。その中に正解があるかもしれないし、ないかもしれない…諸説あるのです。	
多度津町立明徳会図書館	ビジュアル解説！ 世界の探知犬図鑑	「探知犬図鑑」編集委員会	京都祇園 もも吉庵のあまから帖	志賀内 泰弘
	警察犬、災害救助犬、麻薬探知犬などはよく知られていますが、この本では鋭い嗅覚を活かしてわたしたちの生活を支えてくれている様々な探知犬を紹介してくれています。えっこんなこともできると犬の嗅覚や能力に驚くこと間違いなしです。犬ってすごい！ そして、ありがとう。		じわじわとロコミで広がり、読みたい本ランキングで1位獲得。元芸妓のもも吉が祇園で甘味処を営み、はんなりとした京言葉で寄り添う、古都の風物を背景に描く笑いあり涙ありの人情物語。実在の老舗和菓子店やお寺情報等思わず読みながらメモを取りたくなる一冊です。京都好きの方にもぜひオススメ！	
まんのう町立図書館	日本人とはなにか	柳田 国男	たびにでよう	降矢 なな
	本書は戦後間もない1950年代までの日本人の姿について示されている。四方を海に囲まれているがゆえに、大陸の諸外国とは異なる、独自の文化や考え方が養われてきた「日本人の本質」について述べられており、現代社会を生きる我々のアイデンティティの形成について新たな発見の機会を与えてくれる。		人生は知らない世界との出会いの連続。それはまるで、旅のよう。知っている道だと思っていたのに、いつの間にか迷ってしまっていたり、知らないところに行こうと思っていたのに、気が付いたらいつもの場所に来ていたり。さあ、ページを開いて、たびにでよう！ 作者自身の旅立ちとともに生まれた絵本です。	